

# 下水道による総合的な都市浸水対策の推進方策検討業務

調査研究年度：2019年度

浸水対策

政策支援調査研究

## 【調査・研究目的及び成果】

平成27年度の水防法改正により創設された「水位周知下水道制度」について、雨水出水特別警戒水位の設定や防災部局と連携した情報発信等に関して地下街を有する都市の検討情報等を収集し、同制度の早期運用に向けた導入支援を目的に「水位周知下水道制度に係る技術資料(案)」の改定案を作成した。

## 【検討結果の概要】

### (1) 各都市の取り組み状況 (図-1 参照)

- ・ 想定最大規模降雨の浸水シミュレーションの実施は、ほぼ半数の都市に留まる。
- ・ 先行10都市(赤枠)においては、水位計の設置箇所の検討、防災部局及び地下街管理者との調整は行っているが、情報伝達方法や水位周知下水道の指定、雨水出水特別警戒水位の設定は検討中である。

水位周知下水道に関する各都市の取り組み状況等 (R1.10末時点)

取組み状況	都市																			
	A市	B市	C市	D市	E市	F市	G市	H市	I市	J市	K市	L市	M市	N市	O市	P市	Q市	R市	S市	T市
共通	検討対象範囲の決定	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	想定最大規模降雨の浸水シミュレーションの実施	■	■	■	□	□	□	■	□	■	■	■	■	■	□	□	□	■	□	■
	想定最大規模降雨の内水浸水想定区域図の作成・公表	□	■	□	□	□	□	□	□	□	■	□	□	□	□	□	□	□	□	□
水位周知下水道	水位計の設置箇所検討	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	□	□	□	□	□	■
	水位情報伝達方法の検討	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
	防災部局との調整	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	地下街管理者との調整	□	■	■	■	■	□	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	水位周知下水道の指定	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
内水氾濫危険水位の設定	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□

凡例 ■実施済、□検討中

※斜線部：検討対象が浸水シミュレーションで浸水被害が生じないことにより、水位周知下水道の指定を行わないことを示す。

図-1 各都市取り組み状況

### (2) 「避難勧告等に関するガイドライン」改定内容の把握

- ・ 避難勧告等の発令基準は、雨水出水特別警戒水位を基本としつつ、大雨警報(浸水害)の危険度分布等を参考に設定している。
- ・ 垂直避難を基本としつつ、すでに浸水したところを水平避難することは危険な場合が多く、また内水氾濫は短時間で浸水が解消することが多いことから、基本的に移動しないものとしている。

### (3) 「水位周知下水道制度に係る技術資料(案)」の改定案

・ 上記を踏まえて、検討フローを見直すなど(図-2)、改定案を作成した。主な改定内容を以下に示す。

- ① 「想定最大規模降雨の浸水想定区域の検討」では、浸水シミュレーションを活用し、浸水想定に際して、排水先河川水位の影響等を考慮するものとした。
- ② 雨水出水特別警戒水位の設定では、大規模地下街で到達頻度が高くなることに対し、地上部への避難のほか、安全なエリアへの避難とするなど柔軟な検討を行うものとした。

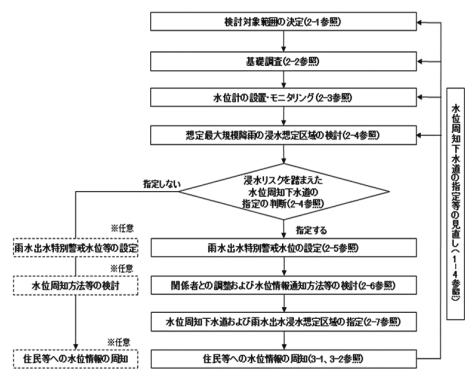


図-2 水位周知下水道の検討フロー

## 【特徴等】

- ・ 各都市の現状整理及び関連ガイドラインとの整合確認を通じ、導入促進に向けた検討を行った。
- ・ 検討結果を「水位周知下水道制度に係る技術資料(案)」の改定案としてとりまとめた。

※ 国土交通省水管理・国土保全局下水道部の政策支援

問い合わせ先：研究第二部 北村 隆光, 吉野 文雄, 大村 宏幸【03-5228-6598】

キーワード

浸水対策, 内水氾濫, 水位周知下水道